

1. 奈良（奈良県奈良市）

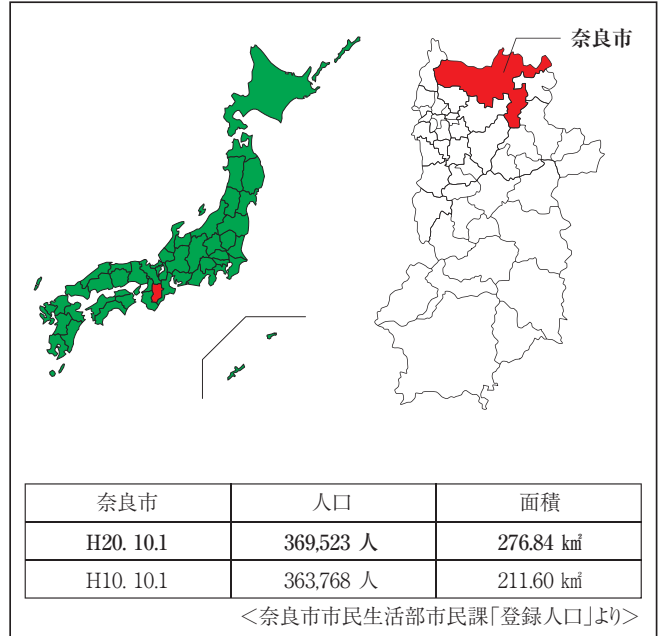
社会

奈良市は、奈良県の北部に位置し、西は生駒市、南は天理市、大和郡山市、桜井市、宇陀市、東は山添村、三重県伊賀市、北は京都府木津川市、相楽郡2町1村に面している。

8世紀、平城京として栄えた奈良には、多くの社寺が残され、寺や神社に関する、さらし・酒造・墨・甲冑・一刀彫などの産業が発展した。

明治31年（1898年）に市制が施行され、その後、平成17年4月1日に奈良市、月ヶ瀬村、都祁村が合併し、新しい奈良市となった。

伝統産業である墨が、奈良の独特な産業として現在でも受け継がれ、全国一のシェアを誇っている。また、墨と並んで奈良筆が伝統的工芸品として指定され、特産物になっている。



自然

奈良市には、春日大社の神山として承和8年（841年）に狩猟と伐採が禁止されて以来、太古の姿を残した原生林が広がる「春日山原始林」（約300ha）がある。この春日山原始林は、カシやシイ類などの常緑広葉樹林を主体とした原始林で、国の天然記念物に指定され、モリアオガエル、ヒメハルゼミ、カスミサンショウウオなどの珍しい生物が生息している。

奈良市内における森林面積は13,345haで、市内の約48%を占めている。

気候

奈良市は、年平均気温が14.6℃と穏やかであるが、奈良盆地という地形から夏は蒸し暑く、冬は冷え込みが厳しい。特に冬は大阪市や京都市より寒さが厳しく、1月中頃から2月初めにかけては、一年のなかで一番寒い時期といわれている。また降水量は年間1,333.2mmと少なく、かつては干害で稲作に大きな影響を及ぼした。

風土

奈良県には3つの世界遺産があり、そのうちのひとつが奈良市にある「古都奈良の文化財（東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡）」で、平成10年12月に登録された。

奈良市では、毎年8月に開催される「ならの燈火会とうかえのろうそく」と長い歴史を有する伝統産業の「ならの墨づくり」が「かおり風景100選」に、また早朝の春日野で聞こえる鹿寄せホルンの音と鹿の鳴き声、夕暮れに響く興福寺などの鐘の音が「春日野の鹿と諸寺の鐘」として、「残したい“日本の音

風景 100 選”」に選定された。

奈良市の中心市街地である「奈良町」は、戦火を免れたため、江戸後期から昭和初期にかけて建てられた伝統的な町家が多く残っている。

文化

東大寺^{にがつどう}二月堂では、3月1日～14日までの2週間、「お水取り」として知られる「修^{しゆ}二^に会」が行われる。この法会^{ほうえ}は、天平勝宝4年（752年）、実忠和尚^{じつちゆうかしやう}によって始められ、以来一度も途絶えることなく続けられている。「お水取り」は、本尊十一面観音にお供えする「お香水^{かうずい}」を深夜に汲み上げる儀式で、練行衆^{れんぎやうしゆう}と呼ばれる僧侶の道明かりとして、長さ6メートルの松明^{たいまつ}に火がともされる。松明から降り注ぐ火の粉は、無病息災をもたらし、「お水取り」が終わると奈良に春が訪れるといわれるなど、古くから親しまれている伝統行事である。

毎秋には正倉院展が開かれ、宝物の一部が特別に公開される。そして奈良の一年を締めくくる行事として、春日大社摂社若宮神社の例祭、「春日若宮おん祭」が12月15日～18日に行われる。保延2年（1136年）、関白藤原忠通が五穀豊穡を願って始めて以来、守り継がれている伝統行事で、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

作成にあたって参考にした文献

気象庁 <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

奈良県 http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1258.htm

奈良県企画部観光交流局観光課 <http://www01.pref.nara.jp/koho/hodo/h19/index.html>

奈良市 <http://www.city.nara.nara.jp/www/toppage/000000000000/APM03000.html>

奈良市学校教育情報通信ネットワーク“まなび・かがやきネット” <http://www.naracity.ed.jp/gakkou-kyouiku/siryou/index.html>

奈良市観光情報センター <http://narashikanko.jp/>

「平成20年度版 奈良市の環境」 <http://www.city.nara.nara.jp/icity/browser?ActionCode=content&ContentID=1225951915293&SiteID=000000000000>

社団法人 奈良まちづくりセンター <http://www4.kcn.ne.jp/~nmc/2004/map/gangou>

奈良大和路の世界遺産 <http://www.nara-kankou.or.jp/world/index.htm>

取り組みの概要（目的・効果など）

- ・奈良県観光課は、人間の「五感」を道具にして、地域固有の風土や文化的・自然的価値を再発見し、評価し直すためのプロジェクト「私のおすすめ『五感で楽しむ奈良』」を実施した（『五感で楽しむ東京散歩』（岩波アクティブ新書）を参考）。その結果、市民から2,200件を超える応募が集まるなど、広く関心を集めた。
- ・社団法人奈良まちづくりセンターは、「市民が主体の自主・自立のまちづくりシンクタンク」として30年前に発足し、「音によるまちづくり」、「五感によるまちづくり」といった新しい取り組みを積極的に実践してきている。

「感覚環境のまちづくり」から見た特色・魅力

- ・「五感で楽しむ奈良」においては、視覚に偏りがちだった奈良観光のアピールに、新たな魅力として音や匂いといった感覚的要素を加え、全国に情報発信した。
- ・奈良まちづくりセンターは、それまでの景観をテーマとしたまちづくりに留まらず、五感を使って奈良を感じてみたらどうなるかという問題意識から、住民参加型の実感体験・ワークショップ等を重ね、地域固有の風土や文化的価値を「五感」を道具にして再確認した。この取り組みを通じ、街並みや景観の保存に加え、そのまちの暮らしの音や生活の匂いといった感覚的な要素が、まちづくりを進めていくうえで大切なポイントになっていることが分かった。

今後の課題・展望

- ・『五感で楽しむ奈良』で選定した108の魅力的な感覚資源をいかに観光客や宿泊客にアピールし、滞在者を増やす力として膨らませていくかが課題となっている。
- ・奈良まちづくりセンターは、まちづくりと五感・感覚をさらに有機的につなげていくために、五感を使った学びの場を準備している。
- ・奈良市は、市民の意見や声を取り入れる工夫として「市民参画及び協働によるまちづくり条例」を策定中である。

「感覚環境のまちづくり」を訪ねて-1

「五感で楽しむ奈良」のまちづくり

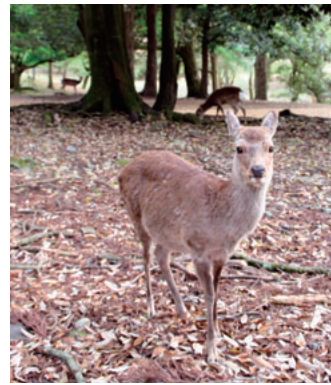
「私のおすすめ『五感で楽しむ奈良』」の試み

「私のおすすめ」は……。

「三輪素麺そうめんの天日干しの風景」、「鹿よせホルンの音」、「あすかで食べる古代米」、「奈良さらしの手触り」、「三条通りの墨の匂い」…。



古来から変わらぬ香りが漂う奈良墨づくり



奈良公園のシカ

平成19年4月16日、奈良県庁でユニークな記者発表が行われた。

「全国2,207件の応募から『五感で楽しむ奈良』を決定」

奈良県の観光課が、半年間をかけて募集してきた「私のおすすめ『五感で楽しむ奈良』」に、2,207件もの応募が寄せられた。その中から選ばれた、108件が発表されたのだ。

内容を眺めると（P.5表1）、いずれも「奈良」という場所にしかない、特別な五感体験ばかりだ。「視て楽しむ・視覚編」、「聴いて楽しむ・聴覚編」、「嗅いで楽しむ・嗅覚編」、「味わって楽しむ・味覚編」、「触れて楽しむ・触覚・体験編」、「パワースポット・第六感編」、「歩いて楽しむ・五感複合編」に区分けされた108件には、生活や自然環境、歴史的建物、特産品などと深く切り結んだ、匂いや味、音などがぎっしりと詰まっている。

「五感をテーマに、私だけが知っている地域の力を公募する」といった県主導の試みは、おそらく全国でも初めてのことだろう。

そのねらいを担当者に尋ねると、「これまで、風景を眺めることに偏りがちだった奈良観光のアピールに、聴覚や嗅覚、触覚、ミステリーゾーンなどの第六感も含めた『五感で楽しむ奈良』の魅力を加えて、全国に発信したいと考えました」（県企画部観光交流局 久保田幸治観光課長）という答えが返ってきた。

「これまで奈良のイメージは、絵ハガキ的な風景に留まっていた。その固定化したイメージを、もっと魅力ある内容に変えていきたい。いきいきと五感で楽しんでもいただける観光資源が奈良にはたくさんあるんです。その魅力を再発見し、情報発信したいと思っています」

史上最高の観光客を呼び込んでいる隣の京都に比べ、集客数や宿泊客が伸び悩んでいる奈良。観光客の滞在時間を少しでも延ばしたいという奈良の切実な取り組みが、新しい奈良の魅力を発見する「私のおすすめ『五感で楽しむ奈良』」の募集へとつながっていった。

表1 私のおすすめ「五感で楽しむ奈良」選定結果 (108件) *1

	視て楽しむ【視覚編】	聴いて楽しむ【聴覚編】	嗅いで楽しむ【嗅覚編】	味わって楽しむ【味覚編】	触れて楽しむ【触覚・体験編】	パワースポット【第六感編】	歩いて楽しむ【五感複合編】
1	釈迦ヶ岳頂上からの眺め	金峯山寺の法螺貝の音	金峯山寺で護摩を焚いた匂い	すずかけの道に残る伝統食「おこめし」、「ばちいも」	鯛対決を食し、鬼火ライプを履き、鬼の繻り歩きを見る「鬼火の祭典」	精神修養の道 奥駈道	弘法大師ゆかりのすずかけの道
2	聖林寺からの大和盆地一望	金峯山 寺朝のお勤めの声	製材直後の言野杉の香り	富有柿	鍾乳岩に登る岩の感触	西眼きの墜落する感覚	金峯神社から西行庵までの道
3	三輪素麺の天日干しの風景	秘木神社の「こめおれ橋」で聞く象の小川の流れる音	梅林の香り	めはり寿司	高野豆腐発祥の地、野道川村にある高野豆腐伝承館で高野豆腐体験	天河大舟財天社の神秘さ	和紙づくり体験などを楽しみながらの国栖の里散策
4	仏隆寺の千年桜	国栖奏で演じられる舞の演奏	玉置山の幻想的な巨木群の匂い	朴の葉ずし	和佐又山で大台ヶ原をしのぐ野鳥のパードウォッチング	玉置神社の古代を思わせる雰囲気	みたらいい溪谷ハイキング
5	奈良で樹水が見られる	12時と夜の8時に響く長谷寺法螺貝の音	繞道祭の松明行列に参加して火をもらう時を感じる、松明の匂い	陀羅尼助丸の苦さ	万葉文化館で「万葉集を体験する」	伊勢神宮発祥の地、松原神社	不動七重滝が見える展望台までのハイキング
6	かかし祭りと彼岸花が咲く棚田	長谷寺の読経の声	そばの里 笠の薪そばの香り	あすかで食べる古代米(赤米、黒米、緑米)	信貴山朝護孫子寺で真っ暗な回廊にある幸運の繻りに触れる	相業発祥の地、相撲神社で相撲の歴史を感じる	大台ヶ原ハイキング
7	慈光院にある枯山水の庭	曾爾高原で風に揺れるススキのサワサワという音	朝護孫子寺の僧侶や行者の護摩の匂い	お寺でグルメ	高山竹林園での39cmの大茶碗で飲む大茶葉茶体験	かざろひの神秘さ	長谷寺の登廊399段
8	大和郡山城の桜	結崎面家公園で行われる名月面家さくら祭りに響く笛の音	お水取りの御松明が燃える匂い	御祭りで振る舞われる「のっぺ」	全国金魚すくい選手権大会への出場	阿日寺は、ぼっくり寺の元祖	談山神社から石舞台への道
9	ライトアップした奈良の世界遺産	鹿よせホルンの音	薬師寺の花会式での体を包み込むお香のかおり	ならまちのカフェ	赤膚焼体験	入鹿の首塚で感じる怨念	伝統的建造物群保存地区に指定された松山地区を歩く
10	東大寺二月堂からの夕日	春日野の鹿と諸寺の鐘	興福寺南円堂のお香の薫り	奈良公園周辺の茶店	唐招提寺うちわまきで、ハート形のうちわを取る	飛鳥周辺のミステリーストーン	室生古道を歩く
11	東大寺担持天皇祭の「お渡り」と「慶讃法要」の様子	御祭り「遷幸の儀」での神秘的な警蹕	燈火会のロウソクの匂い	大安寺光仁会が封印し蒸酒まつりで振る舞われる「蒸酒」	御祭り御湯立で、湯気が上がる金から巫女さんが掛けてくれる湯で一年健康に	大津皇子の悲運を感じる二上山	大和三山を歩く
12	薪能の舞の姿	御祭りで行われる御旅所での舞の音	三条通りの墨の匂い	味酒フェスティバルで提供される県内蔵元の酒	握り墨体験	奈良のヒーリングポイント 石上神社	橿原神宮から甘檉丘までのすずかけの道、ハイキング
13	薬師寺天武忌万経会での約1,000基の置き灯籠	お水取りの点火の「せーの」というかけ声	春日大社と興福寺南円堂の藤の花の匂い	清酒 養祥の地、正暦寺で造られる酒母「昔蔵もと」で造られる清酒	柳生街道の石畳を踏みしめる感触	山の辺の道に点在する古墳の神秘的な佇まい	九品寺付近の彼岸花と稲穂を見ながら歩く葛城古道から竹ノ内街道
14	佐紀唐列古墳群の満々と揺る水、水鳥が泳ぐ様子	大仏殿に吊された風鐸の音	二月堂の点火の「せーの」というかけ声	奈良の味噌	率川神社のゆりまつりで、巫女舞を楽しむ、御神酒を飲む	奈良公園の引き締まった朝の感覚	太子道を歩く
15	日本版ロボポプの「頭塔」	二月堂の手水の水強より流れ出る水音		世界遺産を早朝散歩した後、借で食べる茶粥の味	奈良さらしの手触り	秋篠寺の静寂な境内	山の辺の道ハイキング
16	奈良の夏のあかり	奈良で聞く除夜の鐘の音		奈良の地酒のきき酒	奈良の地酒のきき酒	巡る季節により、奈良の魅力を感じる大和三仏霊場めぐりと七福八宝めぐり	慈光院～法起寺、法隆寺、龍田公園への散策

*1 奈良県企画部観光交流局観光課

「感覚環境のまちづくり」がはじまった

「五感」や「感性」をテーマにした審議会や研究会は、経済産業省の「感性価値イニシアティブ経済産業大臣懇談会『感性☆21』」や、総務省の、映像、触覚、匂いなどの五感情報を伝達する「超臨場感コミュニケーション」研究をはじめとして、各省庁でも次々に開催されている。

環境省では平成18年、「感覚環境の街作り」検討委員会が設置され、15回に亘る検討会が開催されてきた。様々な角度から検討が重ねられ「熱、光、かおり、音といった感覚環境の新しい視点から街作りを推進するため、その基本方向、具体的な施策について、取りまとめられた」（『感覚環境の街作り報告書』）のだった。

高度経済成長期、日本における第一世代の街作りや地域おこしは、各地において主に「産業」を活性化させていくための土台づくりとして推進されてきた。こうした第一世代型の都市計画や街作りから、今、環境との共生を実現していく第二世代型の「まちづくり」へと、再編の時期にさしかかっている。その際、人間の「感覚環境」に着目し、環境を優先させ「心地よい暮らしを実現していく」という、新たな視点が盛り込まれようとしている。第一世代の都市開発型の街作りから大きく方向転換していこうという流れが、芽生え始めているのだ。

報告書を受けて、「感覚環境のまちづくり」を推進している環境省水・大気環境局は、そもそも「騒音」、「悪臭」、「過剰排熱」、「過剰照明」といった、いわば「悪影響要因」についての「規制」や「対処」を担当してきた部署だった。しかし今後は、諸問題の「規制」に止まることなく、環境という視点からの施策を「提案」し、「まちづくり」にも積極的に踏み込んでいくというのだ。

「そのきっかけの一つは、温暖化対策でした。例えばソーラーシステム普及のためには、有利なシステムの可能性をさぐる、といったアクティブな提案をしていかなければ、切迫した温暖化対策型の社会に転換していけません。まちづくりについても同じで、環境への対策が、規制だけでは追いつかなくなってきました。もう一步積極的に、感覚に心地よいまちの設計を提案していくといった発想の転換が必要な時代になっています」（環境省水・大気環境局）

前出の報告書では、冒頭において、従来の「環境配慮型」から「環境主導型」への転換の必要性が掲げられている。

『環境』という視点は、残念ながら従来都市づくりにおいては三番手、四番手、いわば、つけ足し的な要素でした。まずは交通の利便性を高め、建物の床面積を確保し、効率性を考えるといった具合に都市やまちは造られてきました。しかしこれからは、『環境』という視点を、効率性や利便性と同等の価値として据え直した上で設計すべき時代ではないかと考えています」（環境省水・大気環境局）

無味乾燥で無機的、コンクリートで固められ、過剰な熱さえ貯めこんでしまう「岩石砂漠」のような大都会。そうした旧来型の近代都市を、音、光、熱環境、香りといった「感覚要素」を大切にしながら更新していく時代が、いよいよ到来しつつある。

今後の都市や「まちづくり」は、喪失した環境を再生したり「まち」の魅力を再発見し、「感覚環境」をどのように整備していくのかが、大切なテーマになっていくだろう。

「環境主導」の時代へ

例えば、駅前の再開発に取り組む際、騒音や大気汚染がおこらないよう対処する、といった考え方が「環境配慮型」だとすれば、その場所の環境を保全し、よりよく活かし、さらに心地よい環境を再生し創造していこうという積極的な提案が、「環境主導型」と言えるだろう。

「屋上や壁面を緑化する」等のヒートアイランド対策は、「配慮型」と「主導型」の中間領域に踏み

込んだ事例といえるだろう。東京や大阪など大都市では、コンクリート建物や道路によって、熱の放出・土壌水分の蒸散が阻害され、熱環境悪化が大きな問題になっている。今建っているコンクリートの建物やアスファルトはそのままにせざるを得ないとしても、壁面や屋上を積極的に緑化していくことはできるだろう。

さらに、コンクリートの建造物が並ぶ街の中に、風の道を確保し、水辺を活用し、保水性舗装等を整備することにより、もう一度「呼吸する街」をとり戻すことは不可能ではないはずだ。江戸や大阪といった都市のかつてあった姿を振り返ると、人々は水と緑に憩い、川で泳ぎ、橋の上で心地よく涼んでいた。緑や涼感を楽しむ心地よい感覚環境、いわば「呼吸する街」が、経済活動とともに暮らしの中にあっただろうか。

環境省では「クールシティ」構想を掲げ、東京駅周辺の大手町・丸の内・有楽町（大丸有）^{だいまるゆう}地区、大阪駅周辺・中之島地区等を「クールシティ中核街区パイロット事業」対象街区に選定した。

現在、すでに事業は進行しつつある。

「かおり」や「光」、「音」の感覚環境設計も重要だ。「悪臭対策」のみならず、日本の風土に合致した、四季の香りを味わう文化を見直す気運も高まっている。「みどり香るまちづくり」企画コンテストなどが実施され、香りから地域を見直す提案も始まっている。あるいは、画一的な照明になりがちな都市空間において、各々のまちや暮らしにフィットする光の環境を設計し、あわせて星空や月明かりを味わうといった光設計も求められている。「音」の分野では、「騒音対策」と共に、自然環境や伝統儀式などが奏でる地域固有の音環境・サウンドスケープを再評価し、まちづくりの中に音デザインのセンスを取り込んでいくことの大切さが見直され始めた。こうした数々の「環境主導」の流れが、成熟に向かう日本社会の新しい「まちづくり」へとつながっていきこうとしている。

環境省がこれまでに取り組んできた「残したい“日本の音風景 100 選”」、「かおり風景 100 選」の選定の中からも、そうした環境主導の流れが、しだいに鮮明になってきた。

「従来の近代的な都市開発では、人間が考えた無機的な人工的設計プランによる開発が主人公で、環境的な要素はいわば従でした。しかしこれからは、その主従関係を組み替え、『その場所の環境が、まちづくりを主導する』くらいの発想の転換がなければ、旧来型のまちづくりを変革できないと思います」（環境省水・大気環境局）

奈良町の「五感によるまちづくり」

月日を経た木造建築の色が、実に美しい。

江戸末期～明治の面影を伝える町並み。「奈良町」エリアに一步踏み込むと、格子、漆喰の塗り壁、^{むしこまど} 虫籠窓、^{ずし} 辻子と呼ばれる袋小路などが、町を歩く人たちを異次元に誘っていく。町のあちこちに、独特の雰囲気漂っているのだ。町並みを支配している色彩や建物の質感、道幅やまちの匂いといった感覚的な要素が、ここにしかないまちの「風情」や「情緒」を構成しているかのようだ。

奈良市にある奈良町は、猿沢池の南方向に広がっている。約 1300 年前に栄えた元興寺の門前町として発展し、江戸時代には奈良の中心地として栄えた。



伝統的な町家が並ぶ奈良町

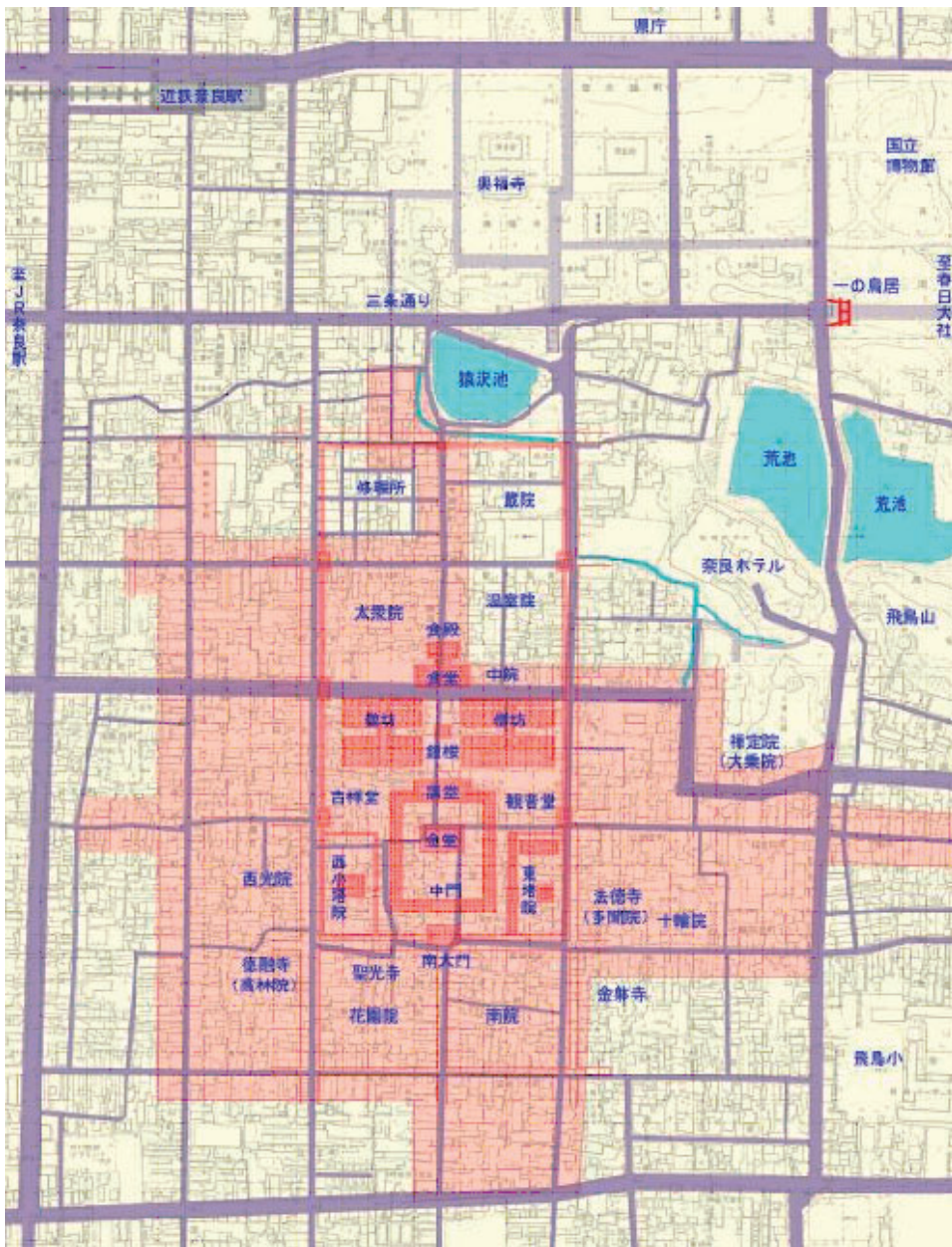


図1 奈良町（元興寺周辺の赤い部分）*2

「奈良町」は、正式な地図上の地名ではない。しもみかど なかのしんや わきど しょうなみ 下御門町、中新屋町、脇戸町、勝南院町など、様々な町を総称した名前として、奈良町と呼ばれている（図1）。平成2年4月、奈良市より、奈良市都市景観条例に基づき「奈良町都市景観形成地区」（面積約48.1ha）の指定を受けている。

「奈良町」では、住民たちによって古い町並みが補修され、今でも大切に建物を保存しながら生活に活用している。



旧元興寺本堂跡にある奈良町資料館

*2 (社) 奈良まちづくりセンター

私が訪ねたのは、その一画にある明治初期の町家を補修した重厚な木造建築。この町家の中に、社団法人奈良まちづくりセンターの事務所がある。

昭和54年（1979年）、「市民が主体の自主・自立のまちづくりシンクタンク」として奈良まちづくりセンターが発足し、日本で初めて社団法人格を取得した。これまで30年もの間、積極的なまちづくりを重ねてきた先駆的なグループだ。

事務所として活用されている町家の庭は、「音によるまちづくり 音風景プロジェクト」によって造られた。



奈良まちづくりセンター



奈良まちづくりセンターの庭に作られた「音の庭」

「かつては、町家の格子を通して人の気配や風の音、地域の生活音が、プライバシーは守られながらも感じられたし、それがコミュニティの土台となっていました。しかし今では、路地に子どもの声も生活音もなくなり、人と人との関係も断たれています」と、同センターの藤野正文副理事長は指摘する。

「そこで、感覚を磨き、まちの感性が豊かに変わっていくことを目指して、音の庭作りに取り組みました。古い井戸を再生し、水の音風景を復活させました。かまどを作り、米を炊き、新たに生活音を創り出すことにしました。庭作りと同時に、音聴き散歩をしたり、祭の太鼓の音、建具屋や酒造りの音などを録音し、『奈良の音風景』を半年間、コミュニティ放送局から発信したりしました」

こうした一連のイベントは、「感覚器をフルに使ってもらい、まちへ感性を拡大していくための実験装置でもありました」と同センターの横井絃一顧問は言う。

「これまでまちづくりの中心は、形や色など視覚中心の景観をテーマにしたものが多かったんです。しかしそれだけでいいのか。目に映る景観・風景の中には、実は音や匂いといった感覚的要素も、複合的に含まれているはずですよ。嗅覚や聴覚、触覚など、『五感』を使って奈良を感じてみたらどうなのか — そんな問題意識から、奈良まちづくりセンター25周年記念の分科会では、『五感によるまちづくり』にも取り組みました」

この分科会では、参加者約30名が3つのエリアに分かれて街を歩き、「五感調査シート」（表2）に記入し、カメラで情報を採集していった。その結果を持ち寄り、参加者全員で語りあった、という。

「興福寺南円堂こうふくじなんえんどうの鐘の音を、2キロも離れた所で聴いている人がいることを知りました。それは、いつも南円堂にお参りしているからこそ、遠くても聞こえるのでしょう。つまり、感性景観は単なる生理的な現象に留まらないということです。まちへのアイデンティティに合致し、心のあり方に絡んでいることがはっきりしました。固有の文化性やまちへの愛着が、五感の景観形成につながっているのです」（横井氏）

これまで「奈良町」は、奈良市が景観形成基準に基づき補修工事等に助成してきたが、市の姿勢に

表2 「五感調査シート」の回答例*3

視覚（色）	① 竹の青、晩秋の木の色、山の青（緑） ② 冬枯れの色、鳥居の色あせ方（白っぽい）、緑と白 ③ 濃い緑（木）、参道の暗がり（木の肌の色、こげ茶）
視覚（形）	① 並木道、格子、アスファルトの道路 ② 彫刻（並木の）、木の形（芝生の上の木々） ③ 鳥居の形
視覚（素材）	① 自然素材まがい、木の肌
聴覚	① せせらぎの音、排気音、人の声 ② 焼き芋屋の音、カラス ③ カラス、焼き芋屋の音
嗅覚	① 枯れ葉と湿気の混じった匂い、排気ガス ② 雨上がりの匂い ③ 鹿のフン
触覚	① 単調（アスファルト）、芝生、水を含んだ土 ② 起伏、フン、土（水気多い）、道路脇の傾斜、鹿のフン ③ 歩道が右に左に、掘り返された土

注：グループで記入しているため、重複した回答がある

も変化の兆しを感じられる。

「これまでの助成は、道路に面した景観保存に留まっていましたが、今後は音、匂いなど、ソフトを大事にするまちづくりが大切だということは個人的にも共感しています。もう『見た目』だけを整備していくのでは、不十分でしょう」（奈良市まちづくり指導室景観課 西田稔課長）

奈良市では今、市民の意見や声を採り入れる工夫として、「市民参画及び協働によるまちづくり条例」を策定中だという。

五感体験で、地域の価値を発見

奈良まちづくりセンターのメンバーたちは、五感を使って、眺望、匂い、手触り、音風景等を実感し直す中から、新しいテーマを発見していった。長い月日をかけて、地層のように重なりあった奈良の「街並み環境の履歴」を確認し、その空間に新たな感覚的要素を再発見し、あるいは創出していった。

そうした取り組みを通して、街並みや景観を保存していくと同時に、そのまちの暮らしの音や生活の匂いといった感覚的な要素が、まちづくりを進めていくうえで大切なポイントになっていることが次第に明確になっていった。

住民参加型の実感体験・ワークショップ等を重ねることで、市民一人一人が自分とまちの関係を、もう一度、直接つなぎ直してみる。地域の固有な風土や文化的価値を、「五感」を道具にして、確認し直してみる。直接まちに触れる経験を通して、新しいまちの魅力を発見していくこと。

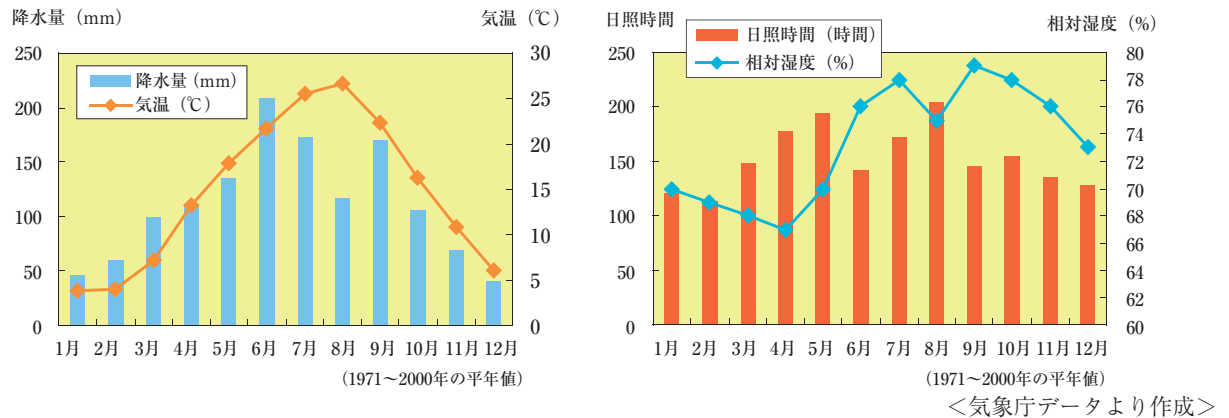
景観を整備してきた奈良町というエリアの中に、さらに豊かな内容を詰め込んでいくための要素が何なのか、明らかにするためのヒントがここにある。

五感を開いて『まち』を歩き、調査することによって、「どんな『まちづくり』をしたいのか」、「心地よく暮らしていくために、何をどう修正したらいいのか」といった課題を議論する具体的な素材を発見すること — 奈良町のまちづくりをめぐる経験は、その大切さを語っていた。

*3 奈良まちづくりセンター

参考資料

気温・降水量・日照時間・湿度



大気状況

一般局（西部局、朱雀局、飛鳥局、西大寺北局）平均値

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
二酸化硫黄 (ppm)	0.004	0.003	0.004	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003	0.004	0.003
二酸化窒素 (ppm)	0.015	0.016	0.016	0.016	0.016	0.016	0.016	0.015	0.014	0.013
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.029	0.026	0.030	0.029	0.027	0.026	0.026	0.027	0.026	0.024

<「平成20年度版 奈良市の環境」>

水質状況

生物化学的酸素要求量 (BOD) 年間75%値

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
佐保川中流 (mg/l)	0.6	1.1	0.9	1.1	2.0	1.7	1.3	1.7	0.8	1.0
秋篠川中流 (mg/l)	7.4	9.3	6.6	8.5	8.9	7.0	5.7	6.5	3.6	4.9
富雄川中流 (mg/l)	2.4	2.3	4.1	3.4	5.1	2.8	2.8	2.3	2.2	2.5
布目川下流 (mg/l)	0.7	<0.5	<0.5	0.6	0.8	0.8	1.0	1.0	0.6	1.1
白砂川 (mg/l)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.7	0.8	0.7	1.1	<0.5	0.6

<「平成20年度版 奈良市の環境」>

公害苦情

(件数)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
大気汚染	84	96	69	53	43	53	47	45	45	35
水質汚濁	23	19	24	18	25	27	23	32	23	20
騒音	27	29	27	32	28	37	30	37	30	30
振動	4	2	1	1	1	0	2	3	1	2
悪臭	21	17	29	28	26	30	32	30	31	26
土壌汚染	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0
総数	160	164	150	132	123	147	134	149	130	114

<「平成20年度版 奈良市の環境」>

